



## 「忠臣蔵十一段目夜討之図」歌川国芳画

江戸時代後期（19世紀前半）

縦24.9cm 横37.3cm 個人蔵

歌舞伎の人気演目「仮名手本忠臣蔵」のクライマックスである、浪士たちの高師直郎討ち入り場面を描いています。日本のものとは思えないような高い屋根の家屋や堀、人物のプロポーションは、17世紀にオランダで出版された書籍の挿絵をそっくり浮世絵にあてはめて構成したものです。

目新しい構図を周知の場面と組み合わせることで人々に受け入れさせてしまう、国芳の創造力がうかがえます。

(特別展「日本のパロディー ～古典にまなぶ、古典であそぶ～」で展示)

## 特別展

岐阜市制120周年記念事業

# 日本のパロディー ～古典にまなぶ、古典であそぶ～

2009.4.24(金)～5.24(日)

ある和歌の一部をそのまま利用する「本歌どり」や、特定の言葉を装飾する決まった詞である「枕詞」の存在など、日本文学では先行する作品を直接生かして新しい作品を作ることや、決まった表現を繰り返し使うことがごく当たり前に行われてきました。その傾向は文学に留まるものではありません。美しい人を花に譬えるような「見立て」、美人の代名詞として平安時代の女性「小野小町」を引き合いに出して同時代の身近な女性にあてはめる「やつし」などは、当世風俗を描いた浮世絵にも頻繁に用いられています。

誰もが知っている、もしくは聞いたことがある要素を取り込むことは、多くの人に受け容れられるようにするための工夫であり、それゆえに使い古された表現によってマンネリ化することを避けるために、作者たちはさまざまな工夫をしています。著名な古代の歌人6名を「六歌仙」と称しますが、これを俳諧に当てはめた「六俳仙」(渡辺華山・画)は内容をアレンジしたものといえます。これに対して、花に当てはめた「六花撰」(歌川豊国・広重画)のように「ろっかせん」という音と6つを一単位とするという形式を活用したものも数多くみられます。

また、人気歌舞伎俳優など著名人の死を追悼して作られる「死絵(しにえ)」の中には、死者を釈迦になぞらえ、涅槃図のスタイルを踏襲したのが見られます。仏教において宗派に関係なく用いられるため、多くの人にとって身近な絵画作品であった涅槃図の構図を借用することで、人々が悲しみに沈む様子を表現するとともに、その応用の仕方に悲しいながらもユーモアが感じられます。

実は、こうした創作は絵画や文学作品など一部の作家・画家たちによってのみ行われていた

わけではありません。江戸時代後期、寺社の宝物開帳や祭礼などに伴い、駄洒落を交えて宝物をかたどる「作り物」の細工見世物が各地で催されました。道具の組み合わせ方や作品図案を記した本が刊行されたり、陶磁器や野菜など限られた種類の素材を用いて何かをかたどって奉納したりと、庶民自身が何かを何かに見立てる「作り物」を楽しんでおり、現在にも祭りの形で残っているところがあります。

一般にパロディーというと、原作に滑稽さを加えて改編した作品が思い浮かびますが、今回は先行する作品の形を替えて作られた作品を広くパロディーと捉えました。ここに登場する作品テーマは、江戸時代の多くの人々にとっては共通認識として定着していたものでもあります。江戸時代の人たちの常識とユーモアセンスに触れてみませんか。



四代目中村歌右衛門死絵 国立劇場蔵

### 関連行事

- ①「香(かおり)で楽しむ日本のパロディー  
～源氏香の体験～」  
5月3日(日) 11:00～、13:30～  
講師: 志野流香道二十世家元  
蜂谷幽光斎宗玄宗匠  
対象: 中学生以上 定員 各回 20人  
参加費 1000円
  - ②「貝殻・パスタを使って絵を作ろう」  
5月17日(日) 10:30～11:30  
講師: 東海学園大学短期大学部  
幼児美術講師 杉山章子さん  
対象: 小学生 定員 20人 参加費 300円
  - ③展示説明会  
4月26日、5月10・24日(日)  
各 11:00～、14:00～ 講師: 当館学芸員
- ①・②は事前に電話でお申し込みください(定員になり次第締め切り)。

## 魯山人の宇宙

2009.6.6(土)～7.12(日)

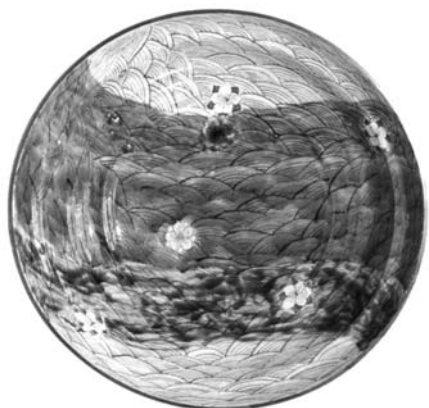
大正年間から昭和30年代に活躍し日本の芸術界に大きな衝撃を与え続けた北大路魯山人は、その強烈な個性とともに、生き方やひとなりそのものが偉大な芸術作品というべき人物です。

その出発点はすぐれた天分を発揮した書・篆刻（てんこく）においてでしたが、続いて、料理の世界に深い関心を寄せるようになりました。魯山人が関与した『美食倶楽部』・『星岡茶寮』は一世を風靡しただけでなく、近年も漫画のモデルになったほか、グルメブームにも大きな影響を与えています。

魯山人料理の特質は、材料を徹底して精選した上で従来の型にはまらない調理方法を考案し、さらに、味覚だけでなく器や会食の場といった環境にまで創意をこらし、五感を刺激満足させようとしたことです。そうして魯山人は料理を総合芸術の域にまで高めたのです。

陶芸の分野では、同時期に強い影響力をもった民芸運動の柳宗悦らと鋭く対立しつつ、斬新豪放でありながら、実際に使うことでその魅力をさらに発揮する作品を数多くのこしました。魯山人は、美濃・備前・信楽・染付・赤絵など多彩な技法を探求しながら、独自の宇宙を創りあげていったのです。

その主な舞台になったのは、『星岡茶寮』で使



九谷風鉢

う食器を焼くために鎌倉市内にきずいた星岡窯研究所でした。そこには、多治見市出身で後に人間国宝に指定された若き日の荒川豊蔵が工場長として魯山人を支えていたのです。魯山人はここに「温故



ベランダでくつろぐ魯山人

知新」の額を掲げた陶磁器の陳列所を建て、自らの作品だけでなく、日本・中国・朝鮮の古陶磁器を収集陳列していました。さらに、伝世品ばかりでなく陶片にも注目し、朝鮮半島や瀬戸・美濃などの古窯跡も積極的に調査して、古窯発掘ブームの火付役にもなりました。魯山人の陶芸観だけでなく、その収集作品群に接することで、豊蔵は陶芸家へ育っていったのです。

後に魯山人は人間国宝への指定を固辞しましたが、その芸術性は海外でも高く評価されています。ピカソ、シャガールら現代美術の旗手たちと親交を結び、昭和29年（1954）にはニューヨークの近代美術館で個展が開かれています。

本年は、岐阜公園の万松館で最初の魯山人作品展が開催され、魯山人が手料理をふるまった昭和24年から60年、昭和34年に魯山人が没してから50年目にもあたります。

本展は、魯山人の陶芸作品を中心に、アメリカから里帰りしたカワシマコレクションと日動美術財団のコレクション77件を展覧するものです。豪放さの中に魂をゆさぶる繊細さが交錯する魯山人の芸術的宇宙の一端を垣間見ることができるでしょう。

## 関連行事

## ■講演会

6月21日(日) 14:00～ 「魯山人と桃山復興」

講師：東京国立近代美術館工芸館 主任研究員

木田 拓也さん



## 加藤栄三・東一記念美術館

### 加藤栄三・東一 故郷：岐阜を描く

2009. 4. 21(火)～ 7. 12(日)

岐阜市美殿町で漆器商を営む商家に生まれた栄三は、一時、家業を手伝っていましたが、商いが肌に合わず心中悶々とする日々を過ごしていました。ある日、大阪の百貨店で竹内栖鳳の描いた「斑猫（まだらねこ）」を見て感銘を受け、画家になろうと決意したといます。父親は猛反対でしたが、母の理解を得て東京美術学校（現東京芸大）に入学しました。10歳年下の東一も画家を志しましたが許されず、家出同然で市川に住む栄三を頼って上京し東京美術学校に入学、日本画家への道を歩み始めました。

美校卒業後、二人とも故郷岐阜には帰らず関東で日展を作品発表の場として活躍することになりますが、多感な少年期を過ごした故郷への思いは強く、しばしば帰郷しスケッチを重ねています。



「雨の三之町」(高山) 加藤栄三

栄三は1968年（昭和43）に東一・大山忠作・長縄士郎らとともにインド・ネパール旅行に出かけましたが、ネパールのカトマンズに着いたとき、飛騨高山とよく似ている印象を受け、日

本の風景の素晴らしさに目覚めたといいます。

帰国後、早速、高山を訪ね取材しました。そこから外務省買い上げとなった名作「飛騨」が生まれました。

また、高山祭りの他に、夏の京都祇園祭り、冬の秩父祭りなど「日本の祭り」をテーマに写生を重ね、多くの美術評論家から高い評価を受けました。



「雪空の陽」(金華山) 加藤東一

東一は、ある対談で「ふるさとの山や川、私にとっての金華山と長良川、これは私のバック・ボーンと言えるかも知れません。私の心の支えになっていることは事実ですね。」「山というのは、心のなかの、ある意味で信仰に近い対象ですね。日本で代表的な山は富士山でしょうが、私にとって金華山は神みたいな存在といえる。やはり、長良川は私の母なる川であり、金華山は私の父なる山と言える。」と語っています。

特に、晩年、栄三・東一の故郷岐阜への思いは強いものがありました。

本展では、高山祭り・長良川の鵜飼・根尾の淡墨桜などのスケッチ・本画（完成作品）を中心に、今まであまり公開していない収蔵作品を展示します。

新収蔵作品である栄三作「養老滝」は、濃墨で描かれた軸装の作品です。滝から溪流へとつながる水の流れが、ジグザグの構成で画面に緊張感を与えています。栄三の新しい魅力を発見できる作品です。

東一の長良川の源流から河口までを取材した「長良川流転」のスケッチも数多く展示します。

故郷岐阜をこよなく愛した栄三・東一の心を展示作品から読み取っていただければ幸いです。

## よみがえるか？メンコブーム

去る1月25日、博物館エントランスホールにて「みんなあつまれ!!メンコ大会」が盛大に行われました。この大会は企画展「ちょっと昔の道具たち」関連の催しです。この企画展の会期中には、昨年度までもいろいろな遊び大会をおこなってきましたが、メンコ大会は今回が初めてでした。参加者には同じ型のメンコを3枚ずつ渡し、セロテープやロウを付けたり、曲げて柔らかくしたりする「オリジナルメンコ」への工夫の時間と、練習の時間をそれぞれ設けたうえで開始しました。

実は、展示会場の遊びコーナーには、おはじき・だるま落としなどとともに、メンコがいつも置いてあります。しかし、普段見学に来る子どもたちは、メンコを見かけてもほとんど興味を示しませんでした。ところが、いざ勝負が始まってみると、創意工夫をこらして作ったオリジナルメンコを、力の限り床に打ちつける闘志あふれる姿が会場のあちこちで見られました。参加者の子どもたちは、もちろんメンコを知らない世代ですが、かつての子どもたちがそうであったように、すっかりメンコに魅了されたようでした。

今回惜しくも涙をのんだ参加者の皆さん、来年も大会が開かれます。今から腕をみがいてまた挑戦して下さいね！



表彰された上位入賞者（左から準優勝、優勝、第3位）

### ■特集展示（2階 総合展示室内）■

2階の総合展示室の一角に特集展示コーナーを設置し、1～2ヵ月ごとにテーマを設けて資料を公開しています。4月から8月の日程は下記のとおりです。

4月2日（木）～5月17日（日）	「縄文・弥生時代のくらし」
5月22日（金）～7月12日（日）	「岐阜市に残る魯山人」
7月17日（金）～8月30日（日）	「信長居館跡の発掘調査」

### ■柳津歴史民俗資料室の展示■

分室・柳津歴史民俗資料室（岐阜市柳津町下佐波西1-15 もえぎの里2階）では、4月から8月まで次の日程で展示を行います。観覧は無料です。

～4月12日（日）	「七墓と地藏祭」
4月14日（火）～5月17日（日）	「覚えてますか？岐阜国体」
5月19日（火）～6月21日（日）	「映画ポスター」
6月23日（火）～7月26日（日）	「境川と治水」

## 加藤栄三・東一記念美術館は 日本画の制作過程が検証できるユニークな美術館

日本画という言葉は、日本の絵画が始まってからのものの総称として使われていますが、言葉として誕生したのは、明治以後、西洋から輸入された油絵（西洋画）に対して作られた語で、新しい言葉です。

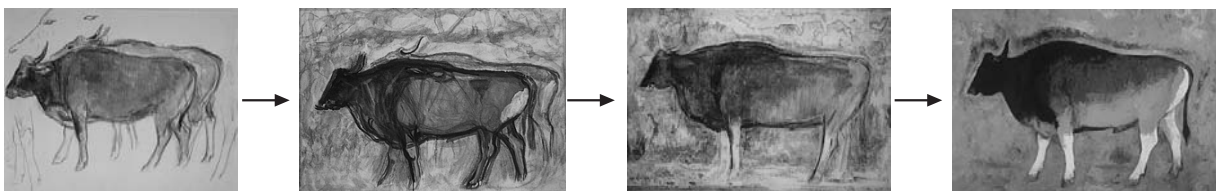
展覧会場で「日本画と洋画とどこが違うのですか」という質問をよく受けます。材料・技法等複雑多様になっている現代美術においては明確な区別がつけにくくなっているのが現状です。そのような質問を受けたとき「絵具と定着剤の違いです。」と答えるようにしています。

油絵は顔料を油で定着するのに対し、日本画は顔料を膠（にかわ）で定着します。その意味では油絵（油彩画）に対しては、日本画を膠絵（膠彩画）というのが正しいのかも知れません。

もう一つ、油絵と日本画の大きな違いは、その制作過程にあるといえます。日本画は、岩絵具を膠で定着させるという技法上、スケッチ現場で作品を完成させることは困難です。

そのため、アトリエでスケッチをもとに構想をねり、下絵を創り、本画（完成作品）への制作に入ります。

### 「BANTING(牛)」 栄三



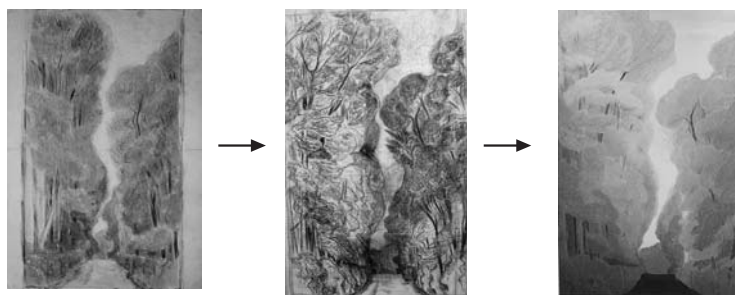
スケッチ

小下絵

大下絵

本画  
(完成作品)

### 「並木道」 東一



スケッチ

大下絵

本画  
(完成作品)

私たちが美術館や画廊で鑑賞する作品は、そのほとんどが本画（完成作品）ですが、一枚の作品が描かれる裏には、制作過程の痕跡ともいべき多くの「作品以前の作品」といえるスケッチや下絵が隠されています。

加藤栄三・東一記念美術館は、栄三・東一両先生のご遺族より、多くのスケッチ・下絵をご寄贈いただき、一つの作品が完成するまでの制作過程を系統的に検証できるユニークな美術館となりました。機会を見つけて、作品以前の作品＝スケッチ・下絵を公開し、絵画の制作過程を紹介する企画展を開催していきます。

(加藤栄三・東一記念美術館長 熊崎勝利)



# 平成20年度受贈資料

平成20年度には、下記のみなさまに貴重な資料を御寄贈いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。(50音順、敬称略)

芳名	資料名
浅見 昭子	瓦用木型紋・石膏紋12箱
安藤 武彦	『徳元俳諧鈔』ほか陶玄亭コレクション645件、陶玄亭文庫1322冊、研究資料一括
安藤 正義	ナイフ形石器・細石刃・石鏃・土器片一括
安藤正義・遠藤史郎	石錘一括
生月 義朗	三洋ビデオデッキ1点
伊藤 克司	岐阜新聞(明治13年)、岐阜日日新聞(明治18年)、『婦人と子供』(昭和21~22年)
伊藤 利春	美濃電気軌道溝付レール1点
岩佐 昌秋	井戸釣瓶・火伸しなど近代生活用具5件
大野 博良	岐阜高女絵葉書1組
小川 政照	「日本修身書 巻五」など教科書48冊、「大江山酒呑童子 全」など図書28冊、県村税領収書4通、証書4枚、「美濃郡村名抄」など文書37冊
小澤 紀章	小澤家資料(古文書、和本、掛幅)一括
恩師長野亘先生のご恩に感謝する会	半歌仙「鶉飼の巻」および関連資料
鬼頭 茂子	脇差 銘友次(付 拵)
後藤 つゆ	歌舞伎プログラム64冊、正本14冊、雑誌34冊、教科書7冊
近藤 邦治	刀剣押形「太刀 銘景依造」(額装)
酒井 昇	臼井岩入武術免許状5巻
鈴木 芙美子	服部正氏市長辞職(大正10年6月)のときの写真
住井 一成	団扇漆塗用刷毛2点
田中 小枝	『習字兼用新編商業手紙文』、『女子消息文のはやし』
田中 義則	片狩村文書一括、大福帳1冊
津田 直和	津田次郎少尉軍務資料18点・同書状24通
津田 裕子	絵葉書3組、秋月胤永筆漢詩1幅
長尾 直行	軍事関係資料など23点
永瀬 愛子	家庭用主要食糧購入通帳1点、家庭用品購入通帳1点
中野 葉子	『キンダーブック』など子ども用絵本3種28冊
長野 和子	三菱交流電気扇1点
西澤 征男	携帯カイロ1点
野口 甲	棹秤(秤量10kg)1点
則武 義夫	足踏みオルガン(昭和40年代)1点
羽賀 秀樹	三洋丸型蛍光灯ペンダント1点
東山 通泰	包装シール収集帳3冊
伏見 未喜男	鉄瓶1点、蓄音機1点、掛け時計1点
松尾 孝和(国寿)	観覧船櫂(迎鶴丸)1点
真鍋 久美子	朱塗盃・祝用角樽など酒店用具5件
宮崎 惇	弁当温器1点
宮脇 律郎	暮らしの手帖1冊、パンフレット・絵葉書13点、岐阜市街図1点、長良精米合資会社通信類1束
武藤 清	手描バック紙・装飾椅子など写真館用具13件
森 和子・中川武子	手提弁当箱・寄裂掛布団など近代生活資料69件
安田 博人	金華山焼 泡瓶1点・焼皿3点及び陶製便器など近代生活資料7点
柳原 茂男	銅製手あぶり火鉢1点
山内 英司	鶉型抜き状差し、羽織(額裏鶉飼図)、鶉飼図水団扇(2本箱入り)、岩波写真文庫『鶉飼の話』
山本 甚吉	SPレコード1箱、マージャン店用具1箱
湯池 輝雄	刀 銘濃州関住兼定作
横井 敏彦	振子式掛時計1点、旧長良小講堂長椅子1点、旧常磐公民館椅子3点

# \*\*\*\*\* 館蔵資料紹介 \*\*\*\*\*

## 各務支考像

高田太郎庵筆、横井也有賛 18世紀  
紙本墨書 縦100cm、横28cm

巧みな筆さばきで描かれる男性は「獅子庵主人」つまり各務支考で、晩年の肖像と考えられます。支考（1665～1731）は美濃国山県郡北野村西山（現在は岐阜市）に生まれ、晩年の芭蕉に入門して俳諧を学びました。芭蕉の弟子を代表する一人で蕉門きっての理論家といわれ、芭蕉没後は各地を精力的に旅して門弟を育てました。獅子老人・蓮二など多くの号をなおり、郷里における活動拠点とした獅子庵は岐阜県史跡に指定されて現在も残されています。

支考の肖像は何点もありますが、本像は、自画像と考えられる若年の略画（柿衛文庫蔵）の面差しを強く残し、長くのびた眉毛、突き出たほお骨やのどぼとけなど、まるで本人に向き合っているように感じさせるリアルなものです。筆者の高田太郎庵（1683～1763）は名古屋の茶人で、狩野常信に学んだ絵師でもありました。支考と交流があったことは、支考の編著『和漢文操』に名があがっていることからわかります。本作品はもとは太郎庵筆の画像だけだったと思われていますが、のちに尾張藩士で俳人である横井也有（1702～83）が上部に紙を継いで、「富士をいざ山の端にせむけふの月」と書き足しました。これは支考の句で、宝暦5年（1755）に出版された支考の句集『蓮二吟集』に収録されるものです。也有は別の支考像（当館蔵）にも賛を加えています。

19世紀になると、わし鼻で口をひき結んだ支考像が渡辺華山によって描かれ、出版されました。著述家・理論家としての支考のイメージから、厳しい容貌だったと想像されたのでしょう。しかしその実像は、支考を直接知る絵師が描いた本像が明らかに示しています。



\*\*\*\*\*

## 利用の御案内

- **開館時間** 午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)
- **休館日** 毎週月曜日と祝日の翌日  
(月曜日が祝日の場合は翌日)  
※特別展開催中は変更することがありますのでご注意ください。
- **観覧料**  
歴史博物館常設展、加藤栄三・東一記念美術館  
高校生以上 300円 (団体240円)  
小・中学生 150円 (団体 90円)  
両館共通で観覧される場合  
高校生以上 500円 (団体400円)  
小・中学生 250円 (団体150円)  
※市内の小中学生は無料、団体は20名以上  
企画展 常設展料金で御覧いただけます。  
特別展 そのつど定めた金額

- **交通案内** J R岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園・歴史博物館前」で下車、すぐ東に歴史博物館があります。  
公園内ロープウェイ乗り場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。

博物館だより No71 2009. 4  
編集・発行 岐阜市歴史博物館  
〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1 ☎058(265)0010  
(分館) 加藤栄三・東一記念美術館  
〒500-8003 岐阜市大宮町1-46 ☎058(264)6410